

展覧 会 レポート

Exhibition Report

文：木元聖奈（本展担当）



▶松本寛庸の作品展示の様子
古久保憲満の作品展示の様子



2012年8月24日(金)～11月11日(日)

【監修】保坂健二朗(東京国立近代美術館 主任研究員)
【アシスタントディレクター】小林瑞恵(社会福祉法人 愛成会)

後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
特別協力：社会福祉法人 愛成会、特定非営利活動法人 はれたりくもったり
協力：滋賀県立八日市養護学校、学校法人 近江兄弟社学園、アトリエひこうきくも、DIG'S、近江八幡観光物産協会、特定非営利活動法人 しみんくふくし滋賀、八幡酒蔵工房

平成生まれの古久保憲満と松本寛庸は、幼少期から絵を描き始め、2人とも紙に鉛筆やペンなどのごく身近な画材を用いて、それぞれの世界を紙上で拡張し続けている。古久保憲満は1995年滋賀県に生まれた。彼の作品は、数々の公募展で賞を受け、現在、ヨーロッパか国を巡回する展覧会にも出展されている。彼は、自身の記憶やインターネットなどで集めた情報をもとに、大胆な線と鮮やかな色で、四方から建物や道路を描き、現実と空想が入り乱れる自分だけの街へと昇華させていく。

一方、松本寛庸は1991年に北海道で生まれ、幼少期に熊本県へ移り住んだ。彼は、2007年頃から地元で作品を発表し始め、その作品は2009年、NO-MAで開催された「この世界とのつながりかた」展、2010年、パリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展に出展された。彼は独自に計算した設計図があるかのよう、小さなモチーフを反復させ、絶妙に余白を織り込みながら、繊細な色彩で画面を埋め尽くす。1階では展示室を3つに区切り、そのうち2つの空間で松本の作品全28点を建築物、乗り物、歴史など、シリーズごとに展示。なかでも、入館してすぐ目に入る場所に展示された大型の組作品「国盗り絵巻」と「加藤清正と徳川家康の陣取り合戦」は圧巻であり、来館者は一気に松本の作品世界に入り込んでいった。また、1階の中庭に面した空間では、古久保が小中学生時代に描き重ねた何冊ものお絵かき帳を中心に、2階では、古久保の約100号大の作品を展示。和室の展示空間では、実際に作家が制作時に使用している座卓のような展示台によって、作品の細部までゆっくりと観賞できる空間となった。

来館者からは世代を問わず「緻密な世界に圧倒された」「作品の優しさが心地よかった」など、感嘆の声や今後への期待感、そして、「作家の個性がよく出ている展示だった」と展示空間へも好評が寄せられた。本展は高知の薬工ミュージアム(2月11日)、横浜のBankART Studio NYK(3月22日)と4月14日(日)を巡回するが、そのなかでさらに多くの人の心を惹きつけることだろう。

ノマ Topic of NO-MA トピ

踊る細胞

田島征三とアール・ブリュットたち

編 木元聖奈(本展担当)

田島征三の新作を含む作品と、全国からセレクトしたアール・ブリュット作品とのコラボレーション展「踊る細胞～田島征三とアール・ブリュットたち～」が開幕。今号のノマトピでは、田島征三さんに本展に対する想いをインタビューしました。

【アール・ブリュットとの出会い】
1984年、今は亡き伊藤喜彦さん(本展出展者)の土鈴との出会いが始まりです。彼らの作品に心を打たれ、世の中に「こんなに面白い作品があるんだぞ」と押し出したい気持ちと同時に、創作意欲を突き動かされました。彼らと共同制作もしましたね。今振り返ると、それは僕の自由さが彼らのやっていることに囚われてしまったようで、もう少し確固たるものを持って彼らと「対決する」という方法もあったんじゃないかと思っています。

【「踊る細胞」展への思い】
そのうちやれるんじゃないかと待ち構えていたところが

あったから、(本展への出展は)すごく嬉しいですね。ただ、彼らの作品と十分に渡り合えるかどうか、今でも自信はないんですよ。今回出展する「流れるいのちの河」や「集落の掟」は、木の実を使うようになった初期の作品で自信作なんですけど、今の作品で渡り合いたいから新作を制作しています。ガマの穂を使った作品やタイサンボクの成熟した大きな実とヘクソカズラのつるによるインスタレーション作品もこれまでとは違う方向でやりたいと思っています。木の実はひとつひとつが生き物だから、絵の具などの普通の画材とは違い、

素材そのものが力を持っているんです。だからこそ、下手に使うとマイナスの要素に陥る危なっかしさがある。僕は木の実の魅力に惹かれてしまって、誰もやっていない道に迷いこんでいるけど、よっぽど強い意志を持って取り掛からないと出来ないことだったろうと改めて思います。一途さや頑固さ、他のことを無視して突き進み、何の迷いもなければ恥もないという世界はアール・ブリュットそのものだと思うんです。

【田島征三とアール・ブリュット】
アール・ブリュットの陶作品が無限にイボイボをくっつけ

ているのを見ると、自分の心を発酵させて外に訴える表現方法が僕とすごく似ていると思う。以前、おおか静流さんに「筋金入りの反骨男」とすごく嬉しい過大評価をされたことがあるけど、「筋金入り」という言葉がすごく新鮮だったんです。例えば、アール・ブリュットの優れたアーティストである舛次崇くん(本展出展者)も自分自身の作品しか見ない。他人の作品には無関心、筋金入りの利己主義者。この「筋金入り」というのが作品を際立たせる要素、条件だと思う。だから僕も筋金入りの反骨男ではなく利己主義者になりたいなと思いますよ(笑)。



田島征三「集落の掟」(2004) 撮影：酒井敦



田島征三/1940年生まれ。絵本作家、美術家。代表作に「ちからたろう」など。

2013年2・3月
本展開催!



展覧会の詳細については裏面をご覧ください。

私の内発性と拮抗する世界
その裂け目から生まれる表現



アール・ブリュットを巡る
トークシリーズ 視点6

【ゲスト】田口ランディ/作家
【聞き手】保坂健二郎
東京国立近代美術館主任研究員
日時：2011年11月26日(土) 14:30~16:30
会場：近江兄弟社学園 教育会館

文：アサダワタル
アール・ブリュットを巡るトークシリーズ
ディレクター

一昨年11月26日の回では作家の田口ランディさんが登壇。「よく考えて合理的に動く方が矛盾なく正しいことができる、というのは社会の常識ですよ。でも私は、考えてから行動するということが私たちの人生にとってそれほど素敵なことなのだろうか？とずっと考えてきました。つまり内発性よりも意味性が重視されすぎているのではないかと」と田口さん。確かに僕は言葉で思考し、言葉で意識し、この社会や価値観を作り上げてきた。そして田口さんは作家であり、もちろん言葉に多大なる恩恵を受けていることを前提の上で、こう語った。「アール・ブリュットの作家の中で、言葉をうまく操れない方は多いですね。私のように当たり前前に言葉を獲得し、言葉でコミュニケーションができるという前提で生きてきた者として、言葉を構築できないということが、どういう世界で生きることなのか、そこにすごく関心があるんです」。言葉による思考の伝達だけがコミュニケーションの回路ではなく、そうではない別の回路を発見する手がかりとして、またその回路における内発性と意味性の割合について考えるきっかけをアール・ブ

リュットに求めること。それは、現在の多くの現代人が、無意識のうちに作り上げて来た意味性の勝利について、再度疑問を投げかけることへと繋がり、「私」の内発性を押しつぶそうとする目に見えぬプレッシャーを再認識することとなるだろう。そして、「私」から生まれる内発性と社会が拮抗する時、そこに「表現」が生まれるということも注目すべきことだろう。

続いて「ここにもものすごく重い心臓病の女の子がいます。海外に連れて行って心臓移植を受けさせる必要があるけど、そのためには1億円が必要です。だから、みんなが募金をしてこの子を海外の病院に連れていき心臓移植を受けさせたい。田口さん、ぜひあなたも呼びかけてください。あなたも私を頼まれることがよくあります。私はものすごくいつも悩んでいます。私だって娘がいる。娘が重病になったら、きっとそう思うだろう。と、思う反面、小説家の仕事は何かっていったら、どんな人生にも意味がある。っていうことを伝えることなんだと。つまり、たとえ5歳で死んでしまってもその人生は、その人生としてすべての人生と同じように意味があるということ

伝えるのが文学や芸術、つまり表現の役割だと思っているんです。このことは、社会の常識ととても拮抗する。人はやはり死ぬよりも生きる方がいいという価値観で、生きるのであれば幸せで健康な方がいいし、病気はやはり不幸だという価値観が圧倒的多数である状況に対して、その人だけの意味や価値観や、内発的に社会に拮抗する衝動をどのように表現として昇華し、文学や芸術として抽象化し訴えていくか。「人間というのはいくつもの面を併せ持っている矛盾した存在なわけで、でもこの矛盾を言葉でもって合理的に整理して生きていくんです。でもアール・ブリュットの表現においてはその矛盾を自己言及してもいいんだということが現れている。蝶にも見えるし、お母さんにも見えるし、山にも見える。とても重層的で多様な表現。この矛盾から生まれる重層性や多様性というものが、実は人間がコミュニケーションしたり、社会を形成していく上で、ものすごく大事なことなんです。そこには2つの対立した意見もまた別の第三の意見としてまとめているような、そういう不思議な力が生まれているんですよ」。アール・ブリュットに対して、その内発的な衝動から生まれた表現において発生する矛盾や重層性に惹かれることを強く強調した田口さん。舞台の縁に腰をかけて、参加者ひとりひとりに丁寧に語りかけるようなトークから生まれた「人間の衝動とは、どこから湧いてくるのか」という大きな問いから、表現に纏わる可能性を見つめ直す確固たる一歩を踏み出せたのではないかと。

的ですよ」と答えてくれた。私こそ、近江八幡観光物産協会さんの思惑に見事にはまった1人なのだと、そのとき初めて気づいたのだ。

最後に、NO-MAについて、こんな嬉しいことを言っていた。「アクセサリーみたいなものではなく自然に身につけているもの。忘れるくらい必要なものに、協会もNO-MAもなればよいと思う。無くなって初めて大切さを感じられるくらい自然なもの、あって当然なものに」。

NO-MAが近江八幡にオープンして今年で10年を迎える。今後も近江八幡観光物産協会さんと地元の人たちの力を借りながら、近江八幡の身体の一部としてさらに溶け込んでいければよいと切に思った。



るのが、事務局長の田中宏樹さんだ。

近江八幡で生まれ、近江八幡で育った田中さんは、1997年の協会の設立と共に入社して16年目になる。その仕事は観光宣伝、イベント、物産開発へのアドバイス、白雲館の管理など様々で、一概に観光や物産の振興につながらないことも多い。しかし、「一見関係ないと思っていたものが、後に繋がっていることが分かることもあり、そこがこのまちの飽きない面白さです」と、田中さんは言う。

近江八幡は市民活動も盛んだ。1つエピソードをあげれば、観光名所として知られる八幡堀は、埋め立ての危機にあったが、市民が立ち上がり、「死にがいのあるまち」をコンセプトに、堀の再生計画をはじめ、新たなまちづくり運動を展開した。これは「観光客のための観光ではなく、市民を中心としたまちづくりの結果として生まれるもの」であり、「このまちで住みたい、このまちで生涯を終えたいと思えるまちづくりを進めることが最善の策」とする協会の観光に対する考え方に繋がっている。

私も去年まで市外に住んでいたが、近江八幡の面白さに徐々にはまり、ついに近江八幡に引っ越してきてしまった。そのことを伝えると、田中さんは笑顔で「そういう人たちが増えるのが目

地域インタビュー
ohmi-hachiman local interview

このまちで住みたい、
このまちで生涯を終えたい
と思えるまちづくり

(社)近江八幡観光物産協会
事務局長 田中宏樹氏

文：藤本えりか(学芸員)

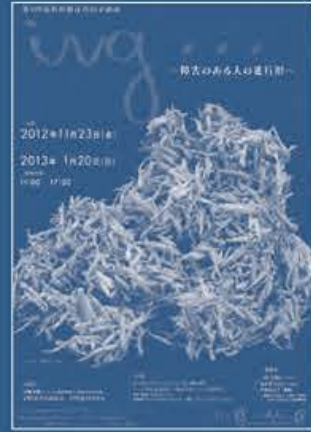


近江八幡の観光の中心である旧市街地に、一際目立つ洋風の建物がある。1877年に八幡東学校として建築された白雲館だ。観光案内資料の展示だけでなく、市民ギャラリー、休憩所としても活用でき、観光客だけでなく市民にも憩いの場所となっている。館の1階に近江八幡観光物産協会の事務所があり、扉をあけると、いつも出迎えてくれ

あのひとの
近江八幡
スタイル

白雲館
近江八幡市為心町元9
☎0748(32)7003
Open 9~17時
年末年始 休館
※1階に(社)近江八幡観光物産協会の事務所があります。

第9回滋賀県施設合同企画展 「ing...〜障害のある人の進行形〜」 【展覧会レポート】



今回で9回目を迎える本展は、23施設35名の約280点の作品を展示。施設職員が日々、彼ら彼女らと接する中で感じた、その人らしい揺るぎない表現の積み重ねや、そこから生み出される作品の魅力、それらを多くの方々に知ってもらいたいという思いで作り上げた展覧会だ。出来上がった作品を展示するだけでなく、造形作品という形に留まりきらないような日々の“表現”も、音声や動画に収めて展示した。

開催初日には「お・は・な オープニングパーティ!」を開催、ギャラリートークやティーパーティ、施設職員による独創的なパフォーマンスを行った。和やかな雰囲気に会場が満たされたイベントになった。

文:山田祥子(本展担当)

第9回滋賀県施設合同企画展
「ing...〜障害のある人の進行形〜」
2012年11月23日～2013年1月20日
【主催】第9回滋賀県施設合同企画展実行委員会
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

【出展施設】
あそしあ、かいげ寮、蒲生野会 ホームさくら、
クリエイトプラザ東近江 能登川作業所、湖北まこも、
さくらはうす、しあわせ作業所、滋賀県立近江学園、
滋賀県立信楽学園、信楽青年寮、社会就労センター あおぞら、
障害者支援事業所 いぎいき、障害者福祉サービス事業所 おおぎの里、
ステップアップ21、なんふでいセンター、バンバン、彦根学園、
びわこ学園 医療福祉センター野洲、堂の里、みどり園、
もみじ・あざみ、やまなみ工房
【協力施設】落穂寮、八身福祉会



「踊る細胞 ～田島征三とアール・スリュットたち～」展+関連イベント

2013年2月1日(金)～3月30日(土)

※月曜休館。ただし2月11日は開館、翌日休館。

🕒 11:00～17:00

🎫 一般300円・高大生250円

中学生以下、障害のある方と付添者1名無料
主催:ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団
後援:滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、
近江八幡市教育委員会

協力:鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館、
京都市ふしみ学園、工房集、信楽青年寮、
めひの野園、るんびにい美術館、
すずかけ絵画クラブ、バンバン、
びわこ学園医療福祉センター野洲、
やまなみ工房、近江八幡観光物産協会、
NPO法人しみんふくし滋賀、
八幡酒蔵工房

オープニングイベント「田島征三×はたよしこ」

2013年2月2日(土) 🕒 14:00～16:00

📍 野間清六郎(滋賀県近江八幡市永原町上12)

定員:30名(要予約、定員になり次第締め切り)

🎫 無料

ギャラリートーク①

2013年2月23日(土) 🕒 13:30～14:30

はたよしこ
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MAアートディレクター)

📍 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員:20名(要予約、定員になり次第締め切り)

🎫 無料(ただし展覧会観覧料が必要です)

NO-MA 今後の貸館展示

「あそしあ作品展(仮称)」

2013年4月9日(火)～14日(日)

🕒 10:00～17:00 🎫 無料

主催:湖北会あそしあ

「個展(山本耕一展/山本雅枝展)」

2013年4月16日(火)～21日(日)

🕒 10:00～17:00 🎫 無料

主催:山本耕一、山本雅枝(個人)

ギャラリートーク②

2013年3月2日(土) 🕒 13:30～14:30

木元聖奈(担当学芸員)

📍 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員:20名(要予約、定員になり次第締め切り)

🎫 無料(ただし展覧会観覧料が必要です)

踊る細胞はっけんプロジェクト

展示体験、作品とのさまざまなふれ合い、田島さんの講演——このプロジェクトでは、3つの視点で本展の楽しみ方を提案します。

楽しみ方①『展覧会ができるまでを体験しよう』
ご好評のうち終了しました。

楽しみ方②ワークショップ

『作品をみる、かんがえる、はなす、きく』
ファシリテーター:横井悠(学芸員)

2013年3月9日(土) 🕒 13:30～14:30

📍 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員:10名(要予約、定員になり次第締め切り)

🎫 無料(ただし展覧会観覧料が必要です)

楽しみ方③特別講演会

『田島征三さんと考える

アートのこと、まちとのかかわり』

講師:田島征三

2013年3月10日(日) 🕒 14:00～16:00

📍 野間清六郎(滋賀県近江八幡市永原町上12)

定員:30名(要予約、定員になり次第締め切り)

🎫 無料

はたよしこ 【編集長はつばやく】 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター

画家で、絵本作家として著名な田島征三さんの著書「ふしぎの世界に踏み込むきつかけになった本です。その1年前に出版された『いのちを描く』という画集の中でも、彼は知的障害者との合作を発表して、これも実に面白い本なのです。

田島さんが高知市のある建物への壁画制作を依頼され、彼らとの共同制作をして発表した時の描写です。新聞記者のインタビューに答え、田島さんから様々な話をした後のことでした。「よこでヤギくんがニコニコ笑って、嬉しそうに話を聞いていた。突然、新聞記者がヤギくんに向かって「ところで八木さんはどう思われますか」とたずねた。ヤギくんは、あわてて真面目な顔になり、うつむいて考え始めた。1分たち2分たち、質問した記者の顔は困惑で引きつり始めた。三分以上もたつてヤギくんは顔をあげ、少しもつれる舌で「うれしい」とこたえたのである。ああ、そうだった。ぼくは得意になってしゃべりまくっていた自分が恥ずかしくなった。『いのちを描く』より」

そうだ。彼らのこの繊細な感性を感じるためには、私もいつも心を研ぎ澄ませていなければならない、と気づかされたのです。

※ご予約・お問い合わせはボーダレス・アートミュージアムNO-MA(下記)まで

※NO-MA主催の次回企画展は詳細が決まり次第、ホームページ等でご案内いたします



ボーダレス・アートミュージアム NO-MA

滋賀県近江八幡市永原町上16

TEL/FAX 0748-36-5018

休館日:月曜日

(月曜日が祝祭日の場合は翌日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp

http://www.no-ma.jp



バス JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)大杉町バス停下車 徒歩10分
車 名神高速道路・竜王ICより「近江八幡-8号線」方面に出る 国道8号線「西横関」交差点右折
「東川町」交差点左折 県道2号線「小幡木町」交差点右折 「出町」交差点左折(計30分)